

令和 7 年度 名取市自転車活用推進協議会 会議録

1. 日時
令和 7 年 11 月 26 日 (水) 15:30～16:40
2. 場所
名取市役所議会棟 3 階第 1・2 委員会室
3. 出席者
別添名簿のとおり
4. 傍聴者
0 名
5. 説明事項
 - 1) 名取市自転車活用推進計画の取組状況について
 - 2) 国の次期自転車活用推進計画策定の動向について
 - ・ 事務局より上記内容について説明。
 - 3) 質疑応答

(星委員)

- ・ 国の次期自転車計画の施策（案）では、「サイクルスポーツ・自転車競技の普及・振興の推進」について、引き続き推進する施策として位置付けられている。名取市でも高校の合宿やイベントの支援を掲げているが、合宿やイベントでサイクルスポーツセンターを「占有」した場合、減免措置は行われているのか。

(事務局)

- ・ 高校総体の自転車競技大会などで、サイクルスポーツセンターや市有地をご利用いただく際の減免について、施設ごとの条例で定める事項に該当すれば、減免しているが、基本的には、市内の小中学校の活動での利用や、市が主催・共催しているイベントを減免の対象としている。今回資料で紹介した高校総体に関しては、料金をいただいている。

(星委員)

- ・ 市として、施設活用を推進していくのであれば、占有となると利用料金が少し高く、イベント主催側も余裕がない中でやっている団体もあるので、減免等の支援策を検討してもらえると、合宿や大会、イベント等での使用が広がっていくのではないかと。そういったところにお金をかけて支援している例もあるので、積極的に後援や主催事業を展開していくことも併せて検討してもらえると、競技者としてはありがたい。

(事務局)

- ・ 名取市で自転車競技といえば、サイクルスポーツセンターがメインになるが、当施設は、令和 8 年度から指定管理制度において利用料金制を導入し、指定管理者の創意工夫の中で、柔軟に料金を設定できる形を取っていく予定である。先程、合宿という話があったが、屋外施設だけではなく、宿泊施設も組み合わせながら、こういった形で料金設定をすればより多くの方に利用いただけるかと、市と指

定管理者で協議を行いながら、できるだけ施設の可能性を引き出せるような形で検討していきたい。

(森委員)

- ・ 自動車対自転車の交通事故は減ってきていると思うが、大型車の幅寄せによる事故で、サイクリストが亡くなるという事例もある。計画の実施状況や今後の取組をみると、自転車利用者に対する取組みが中心となっているが、自動車運転者側、特に大型車の運転者へのアプローチについてもあっても良いと思う。また、自転車の大会やイベントをサイクルスポーツセンターを貸し切って開催する際、貸切利用の回数制限があり、日程的に厳しい時もあった。例えば施設内のコースを一般利用者用とイベント用で分けて貸すなど、一般利用を制限しなくてもイベント用に貸し出せるような方法を検討してほしい。

(事務局)

- ・ 自転車の交通安全に関するこれまでの取組としては、自転車利用者への周知がメインであったが、来年度道路交通法の改正も含めて、自転車の環境が様々変わるということもあるので、御意見いただいた、自動車運転者側のアプローチも含めて、広報周知等、より安全な環境で自転車を利用できるような取組について検討していきたい。貸切については、一般の方の利用が制限されてしまう側面もあり、現時点では、月の貸切利用回数に制限を設けているところであるが、例えば走路のみの貸切とし、他のエリアについては一般に開放する等、切り分けた形での貸し出しも対応している。ただ、走路を分割して貸すとなると、走路への進入口が混在になってしまう等課題はあるようだ。今回いただいた意見は、施設所管課にも共有し、どのような対応ができるのか、検討していきたい。

(阿部委員)

- ・ レンタサイクルの利用促進について、利用したときに、その日のうちに返さなくてはならないというところがネックになっていると思う。例えば日を跨いでの利用を可能にするなど、柔軟な対応を検討してはどうか。
- ・ また、サイクルラックの設置件数について、市内に駐車場が広いコンビニ等も多いので、そういったところに設置されればサイクリストにも目に付きやすいし、休憩等利用しやすいと思うので、呼び掛けてはどうか。
- ・ 併せて、例えば、自転車通勤推進企業に認定された企業がサイクルラックに広告を載せることができる等、他事業と結び付けたインセンティブもあれば、よりサイクルラック設置促進の周知にも繋がると思う。

(事務局)

- ・ 名取市のレンタサイクルはサイクルスポーツセンターと名取駅に設置してある。サイクルスポーツセンターのレンタサイクルについては、来年度、指定者管理制度の運用幅が少し広がる見込みで、その中で、要望のあった複数日のレンタサイクルの利用も検討できるとは思う。複数日の貸出について需要を捉え、そのような要望が多ければ、新しい運用も検討していきたい。
- ・ サイクルラックについては、過去に市内のコンビニにお願いに伺った経過があり、実際に市内で設置しているコンビニもある。本部の意向や店舗特有の事情により、設置できない場合もあるが、引き続きコンビニ等にサイクルラックの設置をお願いし利便性の向上を図りたい。

- ・ 自転車通勤推進企業の取組については、市としても、市内の民間事業者に対し、登録を勧めていきたいと考えており、登録した際のメリットのようなものも併せて検討していきたい。

(坂口会長)

- ・ サイクルラック設置補助事業について、実際に補助を受けてサイクルラックを設置したときに、事業者の負担はどの位になるのか。

(事務局)

- ・ 簡易的なものだと、サイクルラック本体と空気入れ等を合わせて 3 万円以内で収まるため、消費税分のみの負担となる。

(横山委員)

- ・ 昨年度取り組んだスタンプラリー等のイベントは継続する予定なのか。また、朝市に仙台から自転車で来る人が多いので、その辺りをアピールしたり、那智熊野堂の登りを整備したりすると、サイクリストもより利用してもらえと思う。場所によっては利用者数をカウントするのも難しいと思うが、サイクリストが良く訪れる場所をもっとアピールできると良いと思う。
- ・ 2 番目に、名取市では金属製のサイクルラックを置いているところが多いが、木製のものは腐食するので、金属製のものが多いのは良いと思う。せっかく設置されているので、HP 等で、どこに設置されているのか載せてもらえると店舗としてもメリットがあるし、サイクリスト側からも利用しやすいと感じる。
- ・ 3 番目に、青切符制度が導入され、自転車の車道利用は当然増え、ルールやマナーもより厳しくなる。この問題はサイクリストだけではなく、自動車運転者にも影響が大きいので、自転車のルール等について、自動車運転者に対しても、交通安全運動の期間等に周知を行ってほしい。
- ・ 最後に、シェアサイクルについて、特にバスやタクシーが使いにくいような場所にある店舗にステーションを設置すれば、非常に便利になるのではないかと思います。

(事務局)

- ・ スタンプラリーは令和 3 年度から実施しており、今年度も、スタンプラリーという形ではないが、10 月に「Natori Super Cycle Days」を実施した。今後、どのようなイベントを開催していくか、国の補助金等財源の獲得も含め、自転車利用者が楽しめるイベントを検討していきたい。
- ・ サイクルラックについて、名取市サイクルツーリズム HP を開設し、そこで掲載しているサイクルマップ上に、設置店舗を表示しているので、今後更なる周知を検討したい。
- ・ 交通安全について、今までの手法にこだわらず、自転車利用者だけではなく、自動車運転者等、対象範囲を拡げ、チラシや広報等で周知に取り組んでいきたい。
- ・ シェアサイクルについては、既存の公共交通の不足しているところを補うなど、様々な形が考えられるが、国土交通省のシェアサイクルのガイドラインも参考にしながら、御意見いただいた視点も踏まえて、シェアサイクルの導入検討に活かしていきたい。

(矢幅委員)

- ・ レンタル自転車の利用者数について、繁忙期と閑散期で落差があることは理解してほしい。ま

た、レンタル自転車数を増やせば、利用者が増えるということでもなく、施設のキャパ的にも限度がある。利用者数を増やす打開策としては、例えば、レンタサイクルの料金の見直しが考えられるが、サイクリストの方にも施設についてPRしていくこともお願いしたい。

- ・ シェアサイクルについては、市内にステーションの数が多いほど利便性が高くなるが、そのためには、事業者の協力が必要になってくると思う。
- ・ 最後に、サイクルスポーツセンターは条例で設置されており、設置目的としては、地域の活性化及び市民の健康増進に資するためとある。今後は、地域の活性化に力を入れていく必要があり、そのためには関上の事業者の方々と協働で取り組んでいく必要があると考えている。

(事務局)

- ・ 利用者数について、令和4年度が最も多く、自転車利用だけでも10万人を超える利用があった。令和5年度には、8万7千人に落ち込んだが、制約のある中、指定管理者の尽力もあり、令和6年度には9万人程度まで回復したところである。今後も新たな指定管理者制度の導入も含め、より利用者数を増やしていく取組について、指定管理者と共に考えていきたい。
- ・ シェアサイクルについては、ステーション数の多さが利用者の利便性に直結するが、利用ステーションが偏った場合の再配置に係る費用等、コストもかかるので、市内事業者の協賛だったり、ふるさと納税寄附の活用だったり、財源についても考えていく必要がある。
- ・ 関上地域の活性化については、サイクルスポーツセンターだけではなく、その外にも魅力あるスポットがあることで自転車で周遊する人も増えていくと思う。市では関上の魅力の醸成だったり、熊野堂周辺等市の西部地域にも自転車で周遊してもらえるような環境づくりにも力を入れている。今後も、人力で旅する文化の醸成に向け取組を拡げていくことで、名取市に訪れる観光客を増やすことを目的に、自転車の普及に取り組んでいきたい。

(坂口会長)

- ・ 事業化前のステップの社会実験として期間限定でシェアサイクルの導入は検討できないのか。

(事務局)

- ・ 現時点で本格的な検討に至っていない。今後、国の方からシェアサイクルの導入に使えるような補助制度等が創設された際は、そういった社会実験も検討するといった視点は持っておきたい。

6. その他

(横山委員)

- ・ 今回から委員に選出された。市内でNaCC（名取サイクリングクラブ）というサイクリングクラブで活動しており、代表を勤めている。今年は結成4年目で、メンバーが128人いる。基本的には、自分たちでグループを組んで走ったり、イベントや大会に参加したりしている。クラブの理念としては、「安全に楽しく走る」ということを掲げ、実際に走る際には交通ルールを徹底しており、また、SNSで走ったグループライドを発信したりという取組も行っている。
- ・ 市としては、道路の整備といったハード面やイベントの開催に取り組んでもらっているが、当クラブでも、活動を通じて、名取市の魅力を発信していきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

(星委員)

- ・ 広域連携により「ナショナルサイクルルート」の指定を目指す考えはあるか。

(事務局)

- ・ 従来より、宮城県サイクルツーリズム推進協議会にて、広域でのサイクルルートの認定について国と県と市町村で協議を行い、その中で、「震災伝承・伝承みやぎルート」も認定されている。市でイベントを行う際には、ルートを積極的に活用するなどの協力を行っている。今後も連携を取りながら自転車活用事業については、名取市単体だけではない視点も含めて取り組んでいきたい。

令和7年12月5日

会 長 坂口 大洋